

広告 企画・制作: 読売新聞社広告局



社会で必要とされる力を 多様な環境の中で磨く

大学は、様々な力を身に付けて社会へ出るための準備をする場所でもある。社会から必要とされる力は種々あるが、変化が大きくスピードも速いグローバルな世界では、「主体的に課題を発見する力」「課題解決のために積極的にコミュニケーションする力」「多様な考えがあることを認識して協働する力」はぜひ養っておきたい。

一つのキャンパスに約2万人という多様な個性が輝き合う福岡大学の大きな魅力は、この環境に身を置くことで得られる多種多様な人との触れ合い、刺激し合える機会の多さにある。

例えば正課授業の共通教育科目にある「教養ゼミ」。文系と理系、9学部の学生が入り交じってのゼミ形式の授業で、少人数による対話や議論を通じて様々な考え方や価値観に触れていく。これまでに無かった視点が目の前に次々と現れ、学生は発見と衝撃を体験していく。

また、正課外プログラムも実に多彩だ。個性を磨き、社会性やコミュニケーション力、他者と協働する力を身に付ける場として多くの学生が参加している。参加学生のアンケートやヒアリングからは、充実した経験を得たという声が多い。

伝統文化を肌で感じながら 人間的な成長を促す

今年度スタートした「福大生が学ぶ博多祇園山笠の伝統と歴史」は、ユネスコ無形文化遺産にも登録された「博多祇園山笠」という文化の中に身を置き、伝

column

4号館(工学部棟)



今年2月、新たに「4号館(工学部棟)」が完成した。館内には、文理融合型の創造活動を支援する「ものづくりセンター」も設置。ものづくりを総合的に捉え、企業や地域とも連携しながら、幅広い視点から学生の多様な感性を養う。



1 2 3 伝統ある「博多祇園山笠」を現地で学ぶ学生たち (1)博多町家ふるさと館、(2)博多祇園山笠、(3)「野外教育キャンプ」で活動する学生たち (4)チーム全員で課題解決 (5)様々なワークを通して深まる絆

統と歴史を学びながら、社会で必要な力を感じ取るプログラムだ。

日本人学生ばかりでなく外国人留学生も参加する。これまで、博多町家ふるさと館や櫛田神社を訪問し、山笠の歴史と伝統に関する話を聞くなどの学習に取り組んだ。また、大黒流の山笠関係者と直接話し、山笠に対する「熱さ」と気迫を感じたようだ。今後は実際に、締め込み法被姿で「集団山見せ」や「追い山」を体験・見学する予定。緊張感の張り詰めた現場で、普段接する機会の少ない社会人とコミュニケーションを図っていくことで得られる新たな気付き。こ

学部・大学院情報

- 学部 人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部、スポーツ科学部
○大学院 人文科学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、理学研究科、工学研究科、医学研究科、薬学研究科、スポーツ健康科学研究科、法曹実務研究科(法科大学院)

れも社会で生きる大きな糧になるはずだ。昨年、1年間海外生活をした山口県出身の男子学生は、「海外では日本文化について聞かれることが多く、国際人として母国の伝統文化を伝えられるようになるべきと感じた。山笠に参加し、実体験を伴った知識にしたいと思っている。また、礼儀作法に厳しく団結力の強い社会人の方に混じることで、どんな環境にも適応する力が身に付くはず」と熱く語る。

また、福岡市出身の女子学生は、「山笠は裏方で支える女性の力なくては成り立たないという話を聞き、一人一人に役割と価値があることを改めて感じた。「誰が欠けても成り立たない」。組織や集団の中で自分がどう役割を果たしていくべきかを考えるきっかけとなった」と話す。

団体行動を通じて養う リーダーシップや コミュニケーション力

大分県九重町のキャンプ場で行う1泊2日の「野外教育キャンプ」も社会性を養えるプログラムの一つだ。5月末に実施され、韓国、中国、フランスからの留学生を含む約90人の学生が参加した。

学生は異なる学部学科、学年が混合する8つのグループに分けられ、テント設営や冒険教育施設でのアスレチック活動、各グループで活動内容を決め実

施する「オーバーナイトプログラム」に取り組んだ。初めて会う学生が、豊かな自然を感じながら行う集団活動を通じて、チームワークやコミュニケーション力を育み、仲間としての絆を深めていくのが狙い。

各グループには、キャンプ経験を持つスポーツ科学部生がカウンセラーとして参加。グループ活動をコーディネートする役割を担う。カウンセラーの女子学生は、「グループメンバーは知らない者同士。考え方も違えば、譲れない生活習慣もある。だからこそ、チームで活動するには何でも十分に話し合う必要がある。この経験を通して、相手を受け止めながらグループをまとめるリーダーシップが身に付いた」と手応えを語る。

カウンセラーの男子学生は、「悩みや不安等、自分の深い部分がある程度出すことで、他の人との心の距離が縮まる。その雰囲気づくりが大切」と、リーダー像にも色々あることを学ぶ貴重な経験だったと話す。

今年度2回目の参加となった男子学生は、「皆に楽しんでもらうために自分はどう行動すべきか」を意識した。一人一人の意見を聞き、議論した上で物事を決めていくことができ、参加経験者として役割を果たせた」と成長を実感している。

福岡大学には他にも、著名人を招き講演を行う「今を生きる教養講演会」や作家と作品について議論する「オーサービジット」、卒業生が自身の体験を語り就職等の相談に乗る「先輩と語る」、アイデアをカタチにし、大学が支援する「学生チャレンジプロジェクト」等、学生が様々な経験を通じて力を付ける機会が幾つもある。

福岡大学は今も色々な学びの機会を用意しているが、より多くの学生が活き活きと学べるプログラムをさらに提供していく考えのようだ。キャンパスにある多様な学びの機会、豊富にある刺激の機会が、学生一人一人をより輝かせる存在へと成長させている。

入学後の奨学金給付を確約する奨学制度「七隈の杜」

一般入試出願予定者を対象(家計基準あり)に、入学後(1年間)の奨学金給付を確約する奨学制度「七隈の杜 給付奨学金」は、返済不要で約2,000人が対象。支給額は文系学部30万円、理系学部50万円など。成績優秀者は特別増額もある。「七隈の杜 第3子以降特別給付奨学金」(30万円、候補者数約1,000人)との同時給付も可能。

Table with 4 columns: Scholarship Name, Amount, Eligibility, and Notes. Includes '七隈の杜 給付奨学金' (30/50万円) and '七隈の杜 第3子以降特別給付奨学金' (+30万円).

●申請期間:平成30年11月1日(木)~12月6日(木) ●詳細はウェブサイトでご確認ください▶ http://nyushi.fukuoka-u.ac.jp/p/nanakuma/

募集締切 平成30年9月10日(月) 当日消印有効

入選発表 平成30年12月中旬までに発表(予定)

表彰 金賞(福岡大学賞) 1作品(賞状、副賞:図書カード5万円分)

- 銀賞 1作品(賞状、副賞:図書カード3万円分)
銅賞 1作品(賞状、副賞:図書カード1万円分)
特別賞(全日本川柳協会賞) 1作品(賞状、副賞:図書カード1万円分)
特別賞(西日本新聞社賞) 1作品(賞状、副賞:図書カード1万円分)
特別賞(NHK福岡放送局長賞) 1作品(賞状、副賞:図書カード1万円分)
特別賞(福大生が選ぶ賞) 4作品(賞状、副賞:図書カード5千円分)
入賞 45作品(賞状、副賞:図書カード3千円分)
学校賞 2校程度(賞状)

応募方法

応募要項・方法の詳細、応募用紙のダウンロードについては、本学公式ウェブサイト「全国高校生川柳コンクール」をご覧ください。 ※応募者の個人情報は、本学の個人情報保護規程に基づき適切に管理し、本コンクールの目的以外には使用しません。

応募・お問い合わせ先

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1 福岡大学 広報課「全国高校生川柳コンクール」係 TEL 092-871-6631(代) [月~金:9時~16時/土:9時~12時] https://www.fukuoka-u.ac.jp/unv\_guide/fkus/senryu2018/

第14回 全国高校生

川柳コンクール

OPEN CAMPUS 2018

8/4(土) 10:00~16:00 (事前申込不要)

